

■ 駅前通りから俯瞰したイメージ。屋上広場は施設全体に展開され、それらが道のように立体的につながり、動的な印象。

<特徴>

- ①ホールに可変スペースを設け雁行させる(形状が矩形ではない)ことで、よりフレキシブルに組み合わせる様々な大きさの空間を生み出し、施設内の会議室も含めて様々なニーズに対応。
- ②大屋根上部も広場として利用。雁行型ホールの形状(柱配置)を活かすことで、屋上広場は、小規模スペースが繋がる、連続的で動的(変化が楽しめる)。
- ③ホールに可変スペースを設けることで、分割利用時のホワイエ機能等を補完。また、ホール分割利用時の遮音性能が向上 (A案より約10db低減(=D-60:ピアノやステレオなどの大きな音が殆ど聴こえないレベルを確保)。
- ④ホール高さの変化や大会議室兼バンケットルームの前庭など空間的な豊かさを重視。

<課題>

- a.ホールが矩形でないため違和感をもたれる恐れ。
- b.ホールがよりフレキシブルに使える一方で、ホール分割利用時の一つ一つの面積が、A案に比べると小さい(A案は約500㎡、B案は約350㎡)。
- c.屋上広場における大人数のイベント開催に制約。
- d.A案より取得費が高くなる。

・公共棟延べ面積: 約 16,000 ㎡程度*
 ・想定施設取得費: 290~330 億円程度*

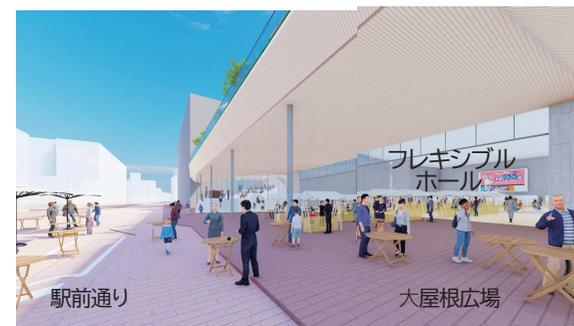


[A 案(BIG ROOF)の特徴]

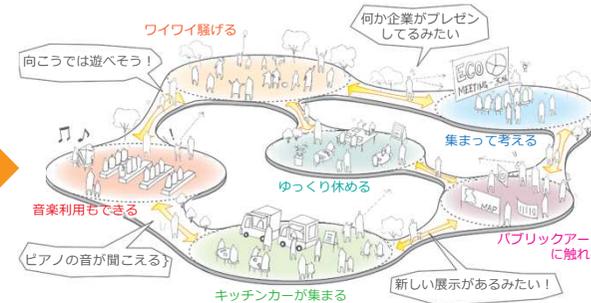
- ・大屋根広場や屋上広場は、それぞれ独立しており、広いスペースを確保しているため、大人数の利用に向いている。
- ・一体的には利用でき大きなイベントを行いやすい。



■ 駅前交差点から見る。



■ 地下道出口(駅前通り)付近から見る。

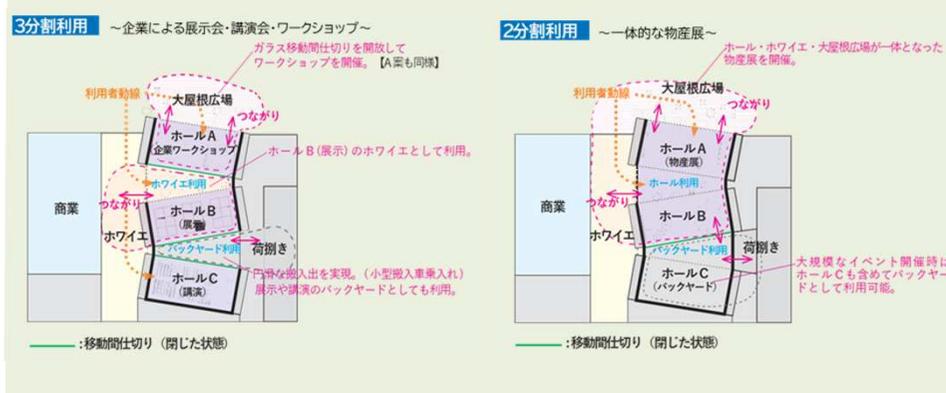


[B・C 案(STREET PARK)の特徴]

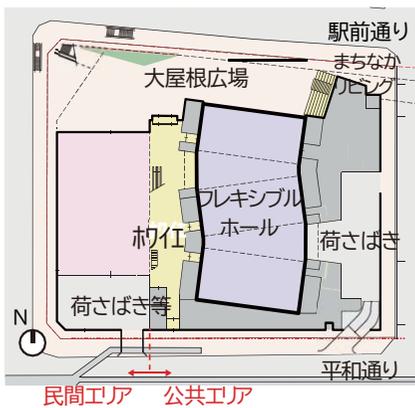
- ・空間の変化があり特徴を持ったスペースが連続する構成は、イベント利用・日常利用の両方に対応しやすい。
- ・それぞれのスペースで多様な活動が共存できる。

※ 取得費見込みはR6.3ベースの概算。面積概算・取得費見込みとも今後の設計・積算により変更の可能性がある。

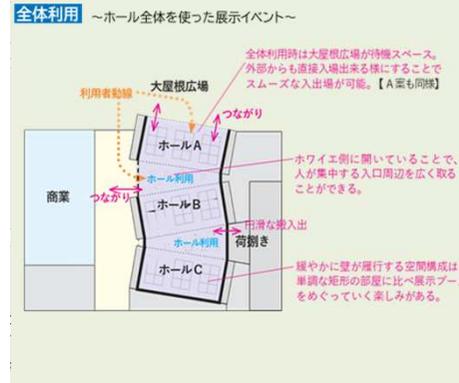
よりフレキシブルで周囲とつながる雁行型ホール



駅前通りから見たイメージ。



配置図兼1階平面イメージ



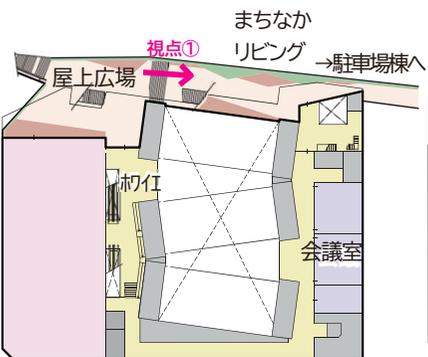
ホール内観イメージ。



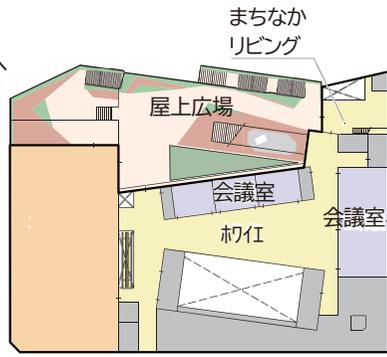
視点②: バンケットと連続する大きな広場。



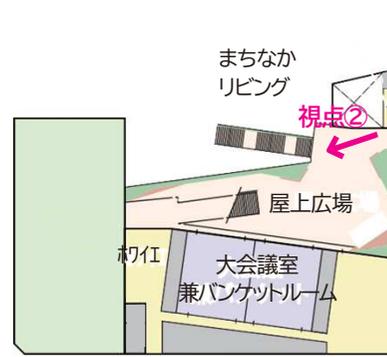
視点④: 屋上広場からホールの様子が見える。



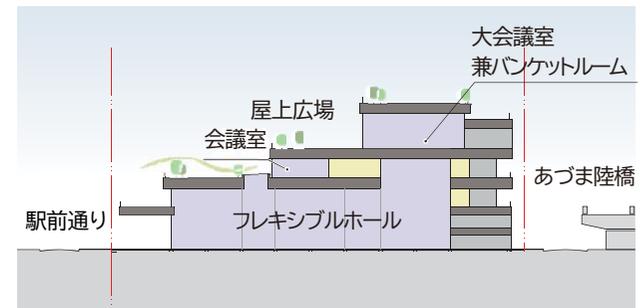
2階平面イメージ



3階平面イメージ



4階平面イメージ



断面イメージ

※ 取得費見込みはR6.3ベースの概算。面積概算・取得費見込みとも今後の設計・積算により変更の可能性がある。